

巡回相談から学んだこと

1. 幼稚園への巡回相談に同行して

(事例1) 今年度より入園したA(4歳児クラス)。
初めて母親と離れて同年代の集団の中で生活することになった。保護者からは、まだおむつが取れないこと、偏食が多いことなどが主訴として挙げられている。園からは、こだわりの強いこともあり、やりたくないことに対して、「いやだ」「あっちにいけ」など声を出して抵抗があり有効な支援方法を知りたいと相談があった。

2. 成果と課題

成果

- ・観察日に比べると、想像以上に早く園に馴染めている。
- ・登園時、自分から保護者の手を放し離れられるようになった。
- ・困り感が感じられなかった保護者だったが、保護者の方から「病院へ行った方がよいだらうか…」と園に相談があった。

課題

- ・Aが安心して登園できるようになったので、次の段階を目指していくこと、例えば園庭にいる時間を減らし、教室に入りたくなるような人、環境、居場所作りを提案。

3. 同行して学んだこと

- ・園の先生とコンサルテーションの方向性を確認する。
- ・保護者が同席の場合、保護者の話にまず傾聴する。
- ・話の中で教育機関や、医療機関とのつながりを希望された場合、各機関を紹介する。
- ・家庭、園でできることをそれぞれに分けて提案する。
- ・必要と思われる資料・書籍などを用意し提供する。
- ・いくつかの支援方法を提案する。

4. 巡回相談の今後に向けて

- ・後継者の育成…誰でもできるように
- ・センター校として専門性の向上
- ・地域内のタテヨコ連携…就学前から進路までを見据え、福祉、医療など関係者・機関との連携
- ・地域の園、学校の底上げ…系統的で積み重ねのある研修を企画

6. 地域支援づくり

- ・現在行っている地域支援

- (1) 教育相談(巡回型・来校型)
- (2) 研修会の実施…年4～5回程度
- (3) 研修講師派遣

- (4) 関係機関との連携…福祉、医療、教育の各機関と必要に応じて連絡を取る。
「市特別支援教育相談連携会議」への出席